

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471000253		
法人名	社会福祉法人 長茂会		
事業所名	グループホームわらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦古里の上4689-1		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町提出日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中にあり、居室からは尾鷲湾を一望でき、季節の移り変わりを感じる事が出来ます。今年は新型コロナウイルス感染予防のため、面会や外部交流が難しくなっている部分もありますが、感染対策を実施しての外出支援や施設内での行事の充実など、少しでも楽しみのある生活を送っていただけるよう支援をしております。またご家族には電話や手紙・写真で施設内での様子をお知らせする他、オンライン面会の実施などでご利用者の日常の様子をお知らせしています。今後も新型コロナウイルス感染症など感染予防を徹底し、ご利用者、ご家族が安心して生活していけるよう力を入れていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

尾鷲湾の紺碧の海と豊かな緑の木立に抱かれているような、恵まれた環境に立地しているショートステイを併設した事業所である。明るい色調の建物の周囲は、訪問時、季節の花(水仙)や土筆が自生し、懐かしい温かい雰囲気であった。コロナ禍でも感染予防を職員は工夫して、七夕飾りや駐車場の花火・菜園づくり…等を行っている。手紙や写真などで日常を報告し、またオンライン面会なども行い、利用者・家族が安心できるように常に工夫している。認知症介護の現場経験豊かな管理者のもと、利用者一人ひとりのペースに合わせたパーソン・センタード・ケアが行われており、家族からも感謝の声が多く届いている、心安らげる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りにおいて理念を復唱しており、共有に努めている。理念は「家庭的雰囲気大切に個々に合わせた生活が送れるように支援します」で、個別ケアに力を入れている。	理念『家庭的雰囲気を大切にして個々に合わせた生活が送れるように支援します』を管理者と全職員は日々の申し送り時に確認し個別ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策の為、現在は交流を中止している。	本年はコロナ禍での感染予防対策の為、地域との繋がりや事業所と交流を中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域代表の方々と話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政やサービス等の報告及び予定、防災関連や地域の情報交換なども行い、相互協力を図っている。	運営推進会議は年6回開催し、本年は感染予防対策の為わらべ談話室で、行事報告や今後の防災関連や行事等の話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に生かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町や広域連合は勿論、社協、包括、民生委員、老人会など協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者・地域包括センター・民生委員・老人会の方々に常に連絡を取り、協力関係が築けるように日常的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの排除マニュアルを作成し、研修会を開催している。日中は施錠を行わず、のびのび生活できる環境を提供している。	毎年4月に『グループホームわらべ身体拘束廃止委員会』を開催し、身体拘束排除マニュアルを作成している。スピーチロックはもとより、玄関の施錠を含め拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会を開催し、職員の意識向上に努めている。身体的虐待は勿論、言葉による精神的虐待についても職員同士が注意しあい、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護を受けている利用者さんを受け入れ、実践を兼ね、権利擁護についての必要性を学び活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご利用者及びご家族の方々に、十分な説明を行う事で理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は日常的に聞き入れる他、面会や電話等を通じ取り上げている。また、法人内の苦情解決委員会や玄関に意見箱を設置するなどし、反映している。	法人内の苦情解決委員会や、玄関に利用者と一緒に作った意見箱(素敵な花等をあしらってある)にお気軽に皆様の声を聞かせてくださいと書かれてある。どんなことでも言いやすい雰囲気づくりに努め、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の申し送り、連絡ノートなどを活用し、意見や提案をかわし、運営に反映している。	申し送りノートを活用して、全職員がどんなことでも言いやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割り当てや休暇願いなど、柔軟に対応している。また職員から出たアイデアや提案を会議にて検討することにより、やりがいや向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や、希望があれば研修を受けられる機会が確保できるよう努め、資格取得を行えるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域の同業者のとの関わりを持つことにより、意見交換や困難事例などについて話し合い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り多くの要望や情報を聞き取り、コミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の希望や家族の思いを取り入れ、介護方針を決め共有している。また、面会や電話、手紙などを通じ信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況や希望を踏まえ、必要なサービス内容を本人と家族等で決定できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた生活が送れるよう、ご利用者の生活リズムを把握し、支えあいながら生活リズムを与え、支えあいながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンライン面会など含め、ご家族が気軽に面会できる雰囲気作りに努めている。毎月の近況報告により、新しい情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地域へのドライブや訪問により、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。	コロナ禍までは地域の友人や知人が訪問しやすい雰囲気づくりを工夫したり、馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援してきた。現在は密にならないように工夫して、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを行う際においても、利用者同士で、世話役と世話をしてもらう人との関係の構築が上手くできるよう職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、家族や病院、施設などからの相談に関しては、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、希望、意向の把握に努め、本人との日常会話や面会の方々との、意見交換により集めた情報から、本人の視点に立って検討を行っている。	個別ケアを重視して利用者一人ひとりと話し合う時間を取り、思いや意向を個人記録ノートに記載し、職員は把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に長年使われていた馴染みのものを使用している。また、面会に来られた知人、友人、親族の方々からの情報を多く得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握、毎日のバイタルチェックによる健康管理、また、申し送りノートや個人記録の活用により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や変化を把握し、家族との定期的・随時の連絡で得た意見を反映し、全職員が対応を話し合い、介護計画を作成している。	家族・本人の意見を入れて現状に即した介護計画を作成し、随時の見直しと定期的な見直しも行っている。モニタリング実践記録表を作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録を残す事により、それをもとに気付いた事や、改善方法などを話し合っている。また、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎及び付き添いや、興奮時の気分転換を兼ねた外出など、その時のその人に合った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防に配慮しながら、近隣での展示会を観に行くなど地域資源の活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じたかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を大切にして、かかりつけ医や協力医療機関を利用者一人ひとりが、適切な医療機関等を受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の非常勤看護師の他、併設施設や同法人の看護師と連携し、助言をもらいながら適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	服薬情報や個人情報などを個々にファイリングし、緊急時や入院時の情報提供に活用するなど、ご利用者やご家族が安心して治療できるよう努めている。また面会は困難な状況の為、カンファレンスへの参加や電話などで情報を得るように努め、退院後の施設対応の準備も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の方針や対応できる範囲について説明し、了解を得ている。ご本人、ご家族の意向を聞き、職員全員で方針を共有している。ご家族と連絡を密に取り、医療機関と連携しながら終末期支援に努めている。	看取りは原則行わない方針であるが、本人・家族が困らないように終末期の支援に努めている。法人内特養が2か所あるので、入居時に申込書を記載してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故緊急時対応マニュアルを作成し、会議にて定期的な話し合い及び訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に加え、法人全体の訓練も行っている。	月1回、火災・地震・夜間等様々な災害を想定して防災訓練を実施している。また、尾鷲消防署の協力のもと、6月・11月に合同で訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保のため、排泄誘導などは耳元で声掛けを行っている。また、失敗や不穏行動時などにも、寄り添いさりげないケアを心掛けている。	地元の職員も多く、利用者にとって馴染みのある言葉遣いや懐かしい方言など、優しい雰囲気でも人格を尊重するように対応している。また利用者一人ひとりの気持ちを大切に、無理強いしないケアを行うように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から意思表示が出来ない方に対しては、個別に面談をし、表情やささいな行動などに目を配るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの嗜好に添った生活支援が出来るように、体調やその日の気分を考慮した上で、声掛けや見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や散髪の支援、衣類など買い物への支援などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後のうがいや、配膳、後片付けなど出来る範囲での手伝いをお願いしている。また、本人の好き嫌いを把握し、食事に対応している。行事の際にはクッキングを取り入れ一緒に調理などを行っている。	月1回利用者のリクエストメニューの日がある。仲よし同士でゆっくりと楽しみながらの食事になるように支援し、行事食時には一緒に調理等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立になっている。また食事の見守りや介助は勿論の事、咀嚼の状態に合わせ刻みやソフト食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後のうがいや食後の歯磨きを促進し、声掛けや介助を行っている。自分で口腔ケアが困難な方には、職員が支援している。また、定期的な入れ歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、定期的に誘導を行い、トイレにて気持ちよく排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表を参考にして利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導でトイレでの気持ちの良い排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による管理を行っており、水分量の調節や運動不足解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴が出来るように心掛け、声掛けを行っている。また、菖蒲湯やゆず湯など、季節を感じ取れる入浴方法なども取り入れている。	外気が入る窓がある浴室は、ゆっくりと入浴出来る造りである。利用者一人ひとりに合わせて入浴できるように心がけて、声掛けをしている。また入浴が楽しみになるように柚子湯・菖蒲湯・など季節感が感じられるように工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々に合った生活が送れるように支援している。また、夜間、眠れず落ち着かれない方には、職員が寄り添ってお茶を飲むなどし、その方は勿論、他の方々も安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者全員の服薬説明書を薬手帳に添付している。また、個別にファイリングする事により緊急時の対応に備えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する力を把握し、日常生活において、その人が出来る役割りを見つけて過ごして頂けるよう努める。また、レクなども自分で選び、楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	交通量が少なく、自然に囲まれた環境を活かし、気候のいい時期は、よく散歩に出かけている。また、感染症予防を徹底した上での家族との外出、職員とドライブなどに行く機会を設けている。	自然に恵まれた環境のもと、隣接の畑での野菜づくり、季節の花々への水やりや近隣までの散歩は日常的に行われている。隣接した庭での焼き芋や花見・外気浴など一人ひとりの希望に沿った支援をしている。	その方にとって、行きたい場所・懐かしい處を把握してコロナ禍でも密になりにくい場所に少ない人数で出かけるなど、楽しみごとの支援が期待される。(ある利用者は種蒔き権兵衛の里や家族と一緒に花見に行きたいと話されていた。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談した上で所持して頂き、買い物や病院受診の際に使用している。金銭管理が困難な方は事務所の金庫にて保管し、必要に応じ出金を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞きながら、電話や手紙は自由に行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、皆で作った季節感ある飾り付けなどをし、常に清潔であるように心がけている。また、居室においても、個別に好みの温度で過ごせるよう支援している。	季節の花が飾られた共有スペースは、明るく仲の良い利用者同士が寛げる空間になっている。廊下も清潔でゆったりとしており、季節感や生活感を取り入れて居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においても、3人掛けのソファや肘置き付きの椅子、マッサージチェアなど、お気に入りの場所で自由にくつろいでいただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自宅で使い慣れた馴染みの物や写真などを飾り、ご本人の状態に応じ本人や家族と相談しながら希望に添った配置を心掛けている。	尾鷲湾が望める居室は、ベランダに自由に出入りでき、とても開放的な設えになっている。利用者一人ひとりの馴染みのタンスやソファ等が置かれ、安心して過ごせるように工夫や配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者さん一人ひとりの能力に合わせ、食堂やトイレまでの距離に配慮した部屋割りが出来るよう努めている。また、居室内の家具の配置においても本人が安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		